

平成 30 年度第 2 回奈良市アートプロジェクト実行委員会 会議録

開催日時	平成 30 年 7 月 19 日（木）午後 1 時から午後 2 時 30 分まで	
開催場所	奈良市役所中央棟 5 階キャンベラの間	
次第	1 開会 2 委員長挨拶 3 議事 (1) 第 1 号議案 平成 30 年度事業計画（案）について (2) その他 4 閉会	
出席者	委員	仲川委員長、佐々木副委員長、青木監事、萩原委員 【計 4 人出席】
	事務局	園部市民活動部長（事務局長）、中川市民活動部次長（事務局次長）、谷田文化振興課長、吉川主査、小谷係長、荒益、一柳、西崎（以上文化振興課、事務局）
開催形態	公開（傍聴人無し）	
決定事項	● 1 号議案について、承認された。 ● グリーン・マウンテン・カレッジについて、今回実施するとともに、今後の中長期的な展望も検討していく。	
担当課	奈良市アートプロジェクト実行委員会事務局（市民活動部文化振興課）	

議事の内容

<p>1 開会</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 第 1 号議案 平成 30 年度事業計画（案）について (事務局より説明)</p> <p><u>美術部門</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業は主に 2 企画あり、ひとつは「グリーン・マウンテン・カレッジ」という名称で、参加者と講師が空間を共有し、あるテーマに対して対話を重視し理解を深めていく企画。 ・ シンボリックなテントとたき火という設えで、参加者と講師が双方向型のワークショップやディスカッションを行う。 ・ 根本的なテーマについて、誰もがわかるレベルでの対話をし空間を共有することで、奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」の基本構想である社会的な課題に対し、アートの手法で考えるという機会を提供したい。 ・ もうひとつの企画は、チェ・ジョンファ氏の展示作品制作とワークショップの企画。テーマは「花の舍利塔（英語では Blooming matrix)」。9 月に国立現代美術館ソウル館で開催する大規模な個展と同じテーマを奈良でもやりたいといっている。 ・ 前回アンケートから、奈良市で奈良の土地を活かしたアートやワークショップをして欲しい、という声が多かった。チェ氏は奈良に非常に愛着があり、奈良を活かした作品を創作してくれるので、今年も継
--

続してチェ氏作品を展示したい。

- ・ チェ氏のワークショップ日程について、11/17（土）または18（日）で検討している。11/15（木）、16（金）にある造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会とも連携し、全国の美術教諭の方々にも参加してもらったり、観てもらおう。また、このワークショップは、グリーン・マウンテン・カレッジの3回目として位置づけ、グリーン・マウンテン・カレッジとも連携する。

演劇部門

- ・ 青少年と創る演劇「ならのはこぶね」は前回委員会にて承認いただいたが、新たな意見をいただければ、プログラムディレクターの田上氏との相談をしていきたい。
- ・ スケジュールについて、学生に合わせたスケジュールとなっている。8/20 平田オリザさんによる演劇入門ワークショップ、9/22, 23「ならのはこぶね」出演者オーディション、12/11 から集中稽古、12/23 ならまちセンター市民ホールにて本番を開催する。

東アジア文化創造 NARA クラス

- ・ 8/25（土）、26（日）に「アートセッション in 奈良」として、アート要素を取り入れながら、中韓学生との共同制作や身体表現を行う。

(委員の意見等)

グリーン・マウンテン・カレッジについて

- ・ 継続事業とするならば、事業全体として、5年、10年程度の中長期的な効果目標設定や担い手の育成などの展開の見通しが必要。中長期的な目標軸のもと、毎年の事業を実施し、成果としての文化や人材の蓄積ができていくかを見て行かねばならない。
- ・ 開校する時は学校となる施設に看板を掲げ、開校式にて市長と校長が計画発表することが望ましい。しかし、継続的な展開は今年度を踏まえて計画していきたいのであれば、今年度は実施しながら企画を練る期間として発想やネットワークを広げていくのでも良い。初動の3年である2016年から今年までをワンクールとし、次の中長期の展望（事業主体はどうしていくか、人材の蓄積はされているかなど）を見通しながら実施していく。
- ・ グリーン・マウンテン・カレッジをひとつの柱として面白い展開になりそうだ。
- ・ 演劇部門もグリーン・マウンテン・カレッジと連携して欲しい。演劇出演者の中高生達が大人とともに議論し、背伸びをしてもらうのは刺激となる。何を意識して演じているか、どんなことを感じているか、自由に話してもらうのも良い。
→（事務局）12月16日の宇宙をテーマにした5回目は、稽古後に参加してもらえるかもしれない。講師陣も子どもたちにもわかるような話をしたいと考えておられる。
- ・ 演劇部門の他にも今後新部門を展開するのであれば、人材育成を目的としてグリーン・マウンテン・カレッジと連携することで、グリーン・マウンテン・カレッジが奈良市アートプロジェクトの柱として育って行くだろう。
- ・ グリーン・マウンテン・カレッジ発案者の小山田氏は、校長として総合ディレクションをしてもらうのにふさわしいと思う。様々な分野の人が参画し、語り合う場が出来、新しい発想を持った人材が育ち、例えば5年後に奈良市アートプロジェクトのアートディレクションをするなど、次々と人材が繋がっていき、最終的に世界中に広がっていくような構想を考えると面白いものが出てくると思う。
→（事務局）小山田氏は、グリーン・マウンテン・カレッジによって、学び合いのシステムを作ってい

きたい、必要があった時に自分の中からグリーン・マウンテン・カレッジで得たものを出せると、災害時などでも大きな力を生み出すきっかけにもなりうると言っていた。

- ・ 名前について、「グリーン・マウンテン・カレッジ」は市民的には入りにくいのではないかと。いっそ古風なものなど、実施していく上でふさわしい名前を付けるのも良い。
- ・ 場所について、柳生中学校が空いているので、毎年一定期間開放して実施できる。創作が出来るので街中よりも良いかもしれない。NARA クラスとの連携として、中韓の学生を交えての実施もできる。事務局案のならまちセンターは、雰囲気は良いが、人通りが少ない。近鉄奈良駅の行基広場は人通りもあり、わかりやすい。人が出入りしやすい環境で、様々な人が立ち寄ってくれたら、より良いのではないかと。
- (事務局) 行基広場のサイズを測り、テント設営が可能か検討する。
- ・ 講師について、アーティストのみでなく、最先端テクノロジーの研究者、生命科学分野の研究者などを迎えて、違う領域のものをアートが繋ぐ役割をすることもできるし、アートを手法とすることで様々な効果がある。また、先人の思想を学びながら、奈良では何が出来るかを最先端科学とアートを結び付けていくテーマで研究者を講師とするなど、イメージを持たせたい。奈良の特色を生かしたもので、グリーン・マウンテン・カレッジをうまく育てて欲しい。
- ・ 奈良にゆかりのある人で、新しいことを始めている人を呼ぶのも良い。例えば、世田谷ものづくり学校で、宇宙に人工衛星を飛ばして空に絵を描くプロジェクトをしていた奈良出身の人がいる。
- ・ アートにあまり親しみがない市民をどうやって引き込んでいくのかを意識して実施して欲しい。
→ 小山田氏はグリーン・マウンテン・カレッジの開催告知はあまりせず、自然発生的に集まってきた人達が参加することを想定していて、それが市民を巻き込む仕掛けとなっている。例えば、たき火の回であれば通行人が集まり、自然と参加者となっているイメージである。
- ・ グリーン・マウンテン・カレッジの参加者設定や敷居は下げないほうが良い。事業の中で突発的に生まれたものや繋がりを期待したい。
- ・ 京都などでやっている形をどこまで再現するかについては、事業の狙いが実現できれば、形は奈良版が良い。実施時期について、若草山焼きの日やなら瑠璃絵の日などの賑わう時期に設定するのも良いのではないかと。

(事務局)

事業内容については、本日の意見をふまえ、今後も事務局にて検討していく。

4 閉会

■次回会議日程：後日調整